

感 染 症 科

概 要

部 長：西 岡 弘 晶 (総合内科兼務)
ス タ ッ プ：土 井 朝 子 (総合内科兼務、ICT)
蓮 池 俊 和 (総合内科兼務、ICT)
園 諭 美 (総合内科兼務)

感染症科は、スタッフ 2 名が専従し、専攻医、初期研修医、他院からの専門研修医と一緒に、外来や入院の感染症症例のコンサルテーション、血液培養のフォローアップ、HIV や熱帯病の診療、感染管理業務などを行っています。他科との関係も良好で、総合内科の毎日の新患カンファレンスなどに参加したり、ICU と合同カンファレンスを行ったりし、感染症患者のマネジメントを一緒に行っています。

特 徴

当院は神戸市の中心的な急性期病院であると共に、高度医療を実践している基幹病院であり、一類感染症病床を有するため、保健行政上話題になる感染症についても神戸市の中心的な役割を担っています。豊富な市中の救急症例のみならず、免疫不全患者の感染症、輸入感染症、HIV 感染症を万遍なく経験することができます。特に輸入感染症と HIV 感染症は外来では感染症科が中心的な役割を果たしています。院内の微生物検査室が充実し、常に情報の伝達が良好であるため、感染症診療、感染管理を通じて院内全体の感染症を把握することが可能です。

研修プログラムの概要

将来感染症医として独立する際に、コンサルタントとしてすべての科の患者を対象にし、新生児期から老年期まで、また免疫抑制療法や造血幹細胞移植後などの様々な免疫不全患者や、術後合併症を対象にすることから、専門研修（後期研修）はその基礎として内科医としての幅広い素養を修得する非常に重要な時期であると考えています。従って、感染症科に固定することなく総合内科で主に研修を行い、毎年一定期間の感染症をローテートする（期間は相談）合同プログラムとなります（総合内科での研修内容は総合内科参照）。3 年間の研修期間中に、感染症科で特殊感染症やコンサルテーション症例を豊富に経験します。希望があれば、総合内科、感染症科以外の科のローテートや院外研修の相談にも応じます。（新専門医制度開始の場合は変更有り）

また、定期的なジャーナルクラブや神戸市内や近畿、日本国内で行われているカンファレンスへの参加、学会発表を通じ、症例から文献検索を通じトピックを掘り下げ、またプレゼンテーションや論文を作成する能力を培うことを目標にしています。

A 基本的研修目標

院内の入院患者、外来患者の感染症に関するコンサルトが主な業務であり、コンサルト内容に対応する。内科で修得した基本的な病歴聴取をはじめとする情報収集の内容から、感染症診療の原則に基づき、最も患者及びコンサルティーマンにとって良好な落としどころを提供する態度を修得する。また感染症診療とともに感染管理活動も同時に行っていることが当院の特徴であり利点でもあるため、感染管理業務をみることで感染管理業務の重要性を学ぶ。

B 研修体制

感染症科の指導医 2 人のもとで研修を行う。日々の活動の基本はコンサルト患者の診療と血液培養患者の診察であり、診察後や指導医とのカンファレンスの後に主治医と緊密な連絡をとる。また、総合内科のカンファレンスにも参加し、お互いの感染症患者の情報を共有し、またフィードバックを行う。

C 到達目標

- ・ 感染症の基本的な経過を理解することができる。
- ・ 感染症と鑑別となる非感染症を診療することができる。
- ・ 検査の解釈を適切に行えるようになる。
- ・ 患者の状態の適切な把握の上、問題点を把握し、マネジメントについて自ら考え、何が最適解かをプレゼンテーションすることができる。
- ・ HIV や熱帯病といった感染症特有の疾患についての基礎を学ぶことができる。
- ・ 免疫不全の感染症の基礎を学ぶことができる。
- ・ 各抗菌薬の性質、薬物動態などを学ぶ。
- ・ 感染症の原因となる微生物について学ぶ。
- ・ 細菌検査室と良好な関係を築き、診療に情報を生かせるようになる。
- ・ 教科書的に推奨される最適な抗菌薬が使用できない際のマネジメントについて学ぶ。
- ・ 症例について、疑問点を適切なツールを使用して調べ、その間に答えることができるようになる。また、どこまでがわかっていることでどこからははっきりしていないのかを、症例を通し把握する。
- ・ 抗菌薬の適正使用を学ぶ。
- ・ コンサルタントとして必要な態度、考え方を修得する。
- ・ 他職種と円滑なコミュニケーションをとり、チーム医療を実践できる。
- ・ 各個別の症例や感染症全体の倫理的な側面にも問題意識をもてるようになる。

評 価

入院患者診療、外来診療、カンファレンスなどにおいて、医学知識、思考過程、判断能力、医師としての姿勢、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、教育能力、リーダーシップなどを、指導医が適宜チェックし、随時フィードバックを行う。

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

西 岡 弘 晶 : nishioka@kcho.jp

土 井 朝 子 : asakodoi@kcho.jp